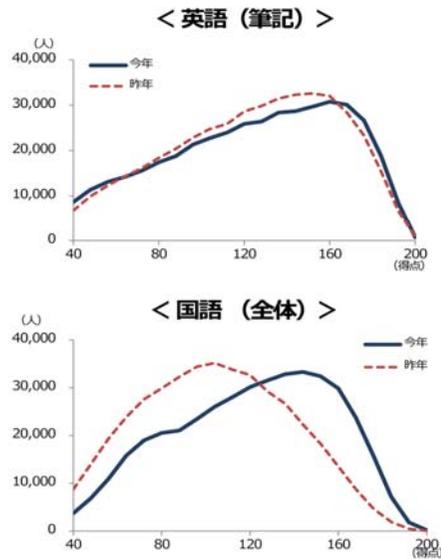


# センター試験の概況①

## ● センター試験平均点

教科・科目	昨年	今年	差	
英語（筆記）	123.8	124	±0	
英語（リスニング）	22.7	31	+8	
数 学	数学Ⅰ・数学A	61.9	60	-2
	数学Ⅱ・数学B	51.1	53	+2
国語	104.7	122	+17	
理 科	① 物理基礎	31.3	31	±0
	化学基礎	30.4	31	+1
	生物基礎	35.6	31	-5
	地学基礎	34.1	30	-4
	② 物理	62.4	58	-4
	化学	60.6	55	-6
	生物	61.4	63	+2
	地学	48.6	47	-2
	世界史B	68.0	65	-3
	日本史B	62.2	64	+2
地 歴 ・ 公 民	地理B	68.0	62	-6
	現代社会	58.2	57	-1
	倫理	67.8	62	-6
	政治・経済	56.4	56	±0
総 合 型	倫理、政治・経済	73.1	65	-8
	5-7文系型	552	570	+18
	5-7理系型	560	572	+12

## ● センター・リサーチ参加者の 科目別得点分布



※7科目文系型（900点満点）：外・数（2科目）・国・理・地公（2科目）  
 ※7科目理系型（900点満点）：外・数（2科目）・国・理（2科目）・地公（理①は2科目を1科目とみなして集計）  
 ※今年の数値は河合塾予想、総合型は昨年とも河合塾推定

左はセンター試験の平均点（2019年度は河合塾予想）。

英語（リスニング）、国語で平均点がアップ。

英語（リスニング）は昨年過去最低の平均点となり話題になったが、今年は得点しやすかった様子がうかがえる。

また、英語（筆記）は平均点に大きな変動はないが、得点分布をみると高得点層でやや増加している。

理科①では、最も選択者の多い生物基礎がダウンしたが、理科①4科目とも30～31点台となり、選択科目による不公平感はほとんど感じられない。

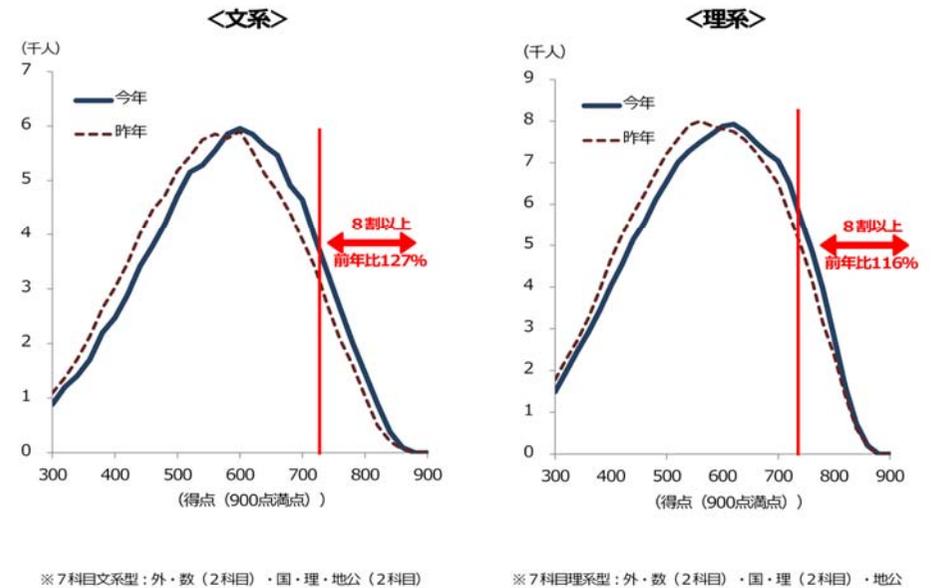
理科②では、受験者の多い物理、化学の平均点がダウン。理系生は理科で得点できなかったと感じている受験生が多かったと推測する。

なお、理科②、地歴・公民とも得点調整はない見込み。

理科、地歴・公民では平均点ダウンとなった科目はあるものの、英語・国語といった主要科目の平均点アップにともない、7科目型では文系・理系問わず平均点は上昇すると推定。

# センター試験の概況②

## ● センター・リサーチ参加者の7科目型得点分布



国公立大の受験を狙う7科目型受験者の文系・理系別の得点分布（※）。

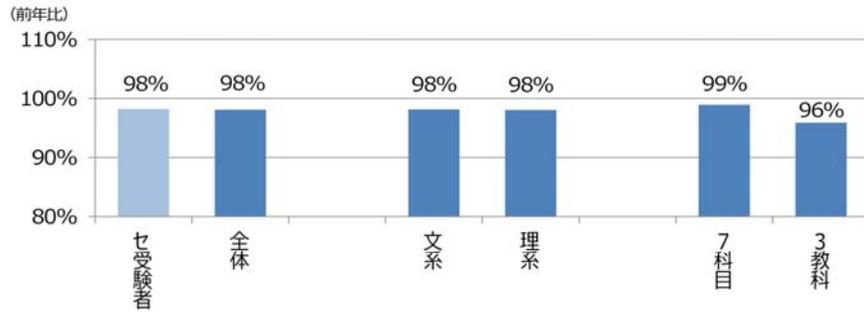
文系・理系ともに、分布はより高得点の右寄りに動いており、難関大合格の目安となる8割（720点）以上の成績層で増加している。

英語（リスニング）、国語などの平均点アップが7科目型の分布にも反映されている。

※得点分布は河合塾センター試験自己採点集計「センター・リサーチ」のもの

## 【センター・リサーチ】参加状況

### ● 参加者数 436,634人



※セ受験者はセンター試験外国語受験者数 ※文系・理系は本人のマークによる

### ● (参考) センター試験の状況

	昨年	今年	前年比
志願者数	582,671	576,830	99.0%
現役	473,570	464,950	98.2%
既卒等	109,101	111,880	102.5%
外国語受験者数	548,465	538,603	98.2%
(受験率)	(94.1%)	(93.4%)	

センター試験受験者から寄せられた河合塾の自己採点集計（センター・リサーチ）の概況。

今年の「センター・リサーチ」の参加者数は436,634人。

センター試験「外国語」受験者に占める割合は8割を上回った。

データ件数の前年比は98.1%となり、「外国語」受験者数と同様の減少率である。

文系・理系別では、ともに98%と前年並み。

教科型別では、国公立大志望者が中心となる7科目型は99%となる一方、私立大志望者が中心となる3教科型は96%と減少が目立つ。

私立大では、2018年度入試の難化の影響により、AO・推薦入試へ回避した受験生も多かったと推測する。

## 国公立大の志望動向① (全体概況)

### ● 全体概況



※難関10大：旧帝大・東工大・一橋大・神戸大

準難関・地域拠点大：筑波大・千葉大・横国大・新潟大・金沢大・岡山大・広島大・熊本大・首都大東京・大阪市大

※「地区別」「大学グループ別」は前期日程で集計

※文系学部：文・人文、社会・国際、法・政治、経済・経営・商、教育 理系学部：理、工、農、医療 その他：生活科学、芸術・スポーツ科学、学際

### ● 大学グループ別

大学グループ	全体			現役	既卒	女子
	昨年	今年	前年比	前年比	前年比	前年比
1 難関10大	57,975	57,447	99%	98%	105%	98%
2 文系学部	21,103	21,246	101%	99%	108%	99%
3 理系学部	35,025	34,416	98%	97%	103%	97%
4 その他	1,847	1,785	97%	94%	117%	95%
5 準難関・地域拠点大	46,950	46,664	99%	98%	109%	98%
6 文系学部	20,800	20,861	100%	99%	119%	98%
7 理系学部	24,109	23,676	98%	98%	103%	97%
8 その他	2,041	2,127	104%	104%	103%	105%
9 その他大	152,710	150,900	99%	99%	97%	98%
10 文系学部	67,300	66,407	99%	98%	104%	99%
11 理系学部	71,430	70,511	99%	99%	94%	99%
12 その他	13,980	13,982	100%	100%	98%	96%
13 国公立大計	257,635	255,011	99%	99%	102%	98%
14 文系学部	109,203	108,514	99%	99%	109%	99%
15 理系学部	130,564	128,603	98%	99%	98%	98%
16 その他	17,868	17,894	100%	100%	102%	97%

国公立大全体の志望動向。

国公立大では、前期日程・後期日程とも前年並みである。

一方、中期日程で増加しているのは、公立大で新規実施する大学が増えているため。

国公立大全体では、堅調な人気である。

右側の表は、国公立大を3グループ（難関10大、準難関・地域拠点大、その他大）に分け、さらに各グループを文系学部・理系学部・その他に細分化し志望者数を集計したもの。

いずれのグループも全体の志望者数は前年並みだが、文理別にみると、理系学部の減少率がやや高いのが特徴。

また、難関大では、既卒生の増加が目をはき、とりわけ文系学部での増加率が高い。

